産業労使
秋祭り
35回の歩み

JLA

日本リーダーズ協会

産業労使「秋祭り」の思いで

――“進化した日本的労使関係の発展を”――

株式会社日本レーザー
代表取締役会長　**近藤 宣之**

これまで日本的経営や日本的労使関係は多くの先輩の知恵と工夫で維持され、社会の安定にも大きく貢献してきましたが、産業労使「秋祭り」はそのシンボル的な行事です。連合と経団連による産業労使のメンバーが集まって、お祭りの賑やかな雰囲気の中で懇談するようになってから既に30余年。さらには厚生労働省の幹部が参加するようになり、まさに政労使のお祭りになっています。

私は、ほぼ半世紀近く前は、上場企業労組の執行委員長、ゼンキン同盟の中央執行委員として労組側の立場でした。それが30年近く前からは中堅企業の経営者として参加してきてお祭りの景品も提供してきました。このお祭りに参加すると私と同様に企業内労組の民主化闘争に苦労した昔の仲間に会うこともでき、同じような経験をした労組幹部は歳をとっても運動への情熱は変わらないと実感します。

さらに海外の駐日大使館や領事館からも参加者があり、国際交流の草の根活動というまさにお祭りに相応しい雰囲気も出てきました。10年ほど前に当社の欧州の取引先の3社の社長が秋祭りの当日たまたま来ていたので、この祭りに連れて行きました。このお祭りの趣旨や参加者について説明したところ、3人とも非常に驚いていました。この中の一人のドイツ人社長は、これでなぜ社会主義が日本で最も成功したのか分かったと言ったのには苦笑したものです。

欧米の労使関係とは大きく異なる労使関係を直接見た3人の社長には信じられない光景だったでしょう。日本的経営労使関係について、分配では対立する面もあるが、生産性の向上、体質強化では協力するという関係は、この産業労使「秋祭り」を見てもらうことが一番だったと思います。それが今や株主資本主義になり、格差問題など社会の歪が拡大してきたことは残念です。今後、産業労使「秋祭り」はじめ、労使の本音の懇談を通じて、進化した日本的労使関係が発展することを願わずにはいられません。